

## 入社して思うこと

## 大 香 珠 恵

昨年4月、私は社会人としての一歩を踏み出しました。生活、友人、仕事、全てが新しいものに囲まれ、不安とそれ以上の新鮮さと興味がありました。入社当初は緊張の連続で1日で相当の疲れを感じていたことを思うと、今は会社にも慣れ、確かに半年もたったことを実感致します。慣れたとは言っても、仕事の内容については、次から次へと新しいことがあり、これから先、学ぶことが多くある今は、「まだ1年」と言った方があっているかもしれません。

仕事に携わってきて、失敗は早くも数多く挙げられますが、それよりも嬉しかったことの方がよく覚えています。初給料を頂いたことはもちろん、初めて現場に行ったとき、初めて電話がかかってきたとき、担当の仕事を受けたこと、報告書に名前が載ったこと、等々。

特に、現場に出ることは嬉しいことです。ボーリング現場を初めて見たときは、この機械で何十mもの深さまで地盤の持つ情報を知り得てしまうのか、と単純に感心して見入ってしまいました。現場では、調査や観測などの作業に実際に触れることができるので理解しやすく、また、多くの人と出会い、仕事やその土地の話を伺えることが

いいところです。

仕事で出会う方に、やはり、女性は珍しいと言った内容のことをよく言われます。友人にもこうした業界に就職した話をする、「女の人は少ないんじゃない?」と尋ねられます。男性の仕事と思われているのが一般的でしょう。普段は、あまり性別の違いはこだわらない私自身も、現場にいるときは意識させられることが多くあります。現場で、顔や名前を相手に覚えてもらいやすいという良い点もありますが、穴掘りや重い荷を運ぶといった腕にものを言わず作業となると私の出る幕はなく、手伝いたいのに何もできない、という非常に悔しい思いもしました。この時ほど、体力の違いを感じたことはありません。

そうした現場作業の中でも、こんな嬉しいことがありました。新人社員4名で弾性波深査の研修に行ったときの事です。展開作業を手伝うことがあったのですが、重いケーブルを持つての移動はなかなか大変なものでした。手伝うというより足を引っ張っている様な気持ちで申し訳なく思っていたのです。ところが、「展開作業を一番上手にしていた」と言って下さったのです。長いケーブルを巻く作業を手間取らずに出来たので、あまり時間がかからなかったと言うのです。はたして、現場であまり力になれなかったという私を慰めるための言葉であったとしても、とても元氣付けてくれるものでした。

このことは、苦手な部分を別の所でカ

バーできるということを伝えてくれました。変に焦ったりせず、まず、自分のできることをしっかり行うことで、役立つことができると思うのです。

お世話になったボーリングオペレーターの方が、「女性の技術職を最近よく見るようになった」と言っていました。「色々なことを質問してきて、一生懸命メモをしていたよ。」という話を聞くと、その人も頑張っているんだな、よし、私も！という気になります。これまでは、その日その日の仕事をこなすのに精一杯でしたけれど、これからは、一歩先を見つめて、自分自身が成長するような仕事の仕方を身につけたいと思います。そうして、技術職に就いていると堂々といえるよう、早く一人前になりたいです。

(応用地質科)

又、違った点から見て、私自身の発想をするなら、地質学は人間とよく似ているように思います。例えば、砂、粘土、シルト、岩石などの分類は、人間でいう人種であり、何々質というのは、何々系何々人という表現をしているように思えるし、何々混じりというのはハーフの人というところであろうか？又、地史は人間でいう先祖であるように感じるし、そして性質、化学、物理的作用は人間でいうそれぞれの文化、思想、個性、宗教などの複雑さと、よく類似しているように思えた。

最後に、この土質、地質の分野を大きな目で見れば地球を対象にしていることがよく理解できた。私自身がこれに携わっていることをとても誇りに思います。そして微力ではありますが、この分野の発展に貢献していきたいと思います。

(科テクノ長谷)

---

## 高橋 達也

私がこの業界に飛び込んで約1年、最初の頃は、土質・地質分野はもっと簡単なものだと考えていました。しかし今になって、とても複雑で中身が濃いものだとすごく実感しています。

それは、土の分類はもちろん、その性質、含水、有機物及び風化・気候条件など化学・物理的なもの、地質・古生物学的分野まで、くわしく考慮しかつ理解してなければならぬ。

